

「精神障害者の医療に関するアンケート」の結果について

2019. 11. 6 11. 5修正

大阪精神障害者連絡会(大精連)

大阪府精神障害者家族会連合会

大阪障害フォーラム (ODF)

今回、精神障害者の経済生活の実態（住まいの状況、主な収入など）と医療費の実態（医療の種類・頻度、医療に関する負担など）に関するアンケートを実施しました。その結果について、報告します。

○期間：2018年12月～2019年3月

○取組団体：3団体（ODF、大精連、大家連）

○協力団体：精神保健福祉士会、あみの会、大阪精神科診療所協会、てんかん協会他

1、アンケートの結果（回答総数865名）

① 年齢

14才から91才まで852名（13名が無記入）が回答を寄せ、平均年齢は、48才、31歳から64歳までが81%となっている。

① 性別

男性519名（61%）、女性331名（39%）となっている。

② 障害種別（重複あり）

身体13名、知的19名、精神695名となっている。

③ 病名（重複あり：972名）

多い順で、統合失調症575名、発達障害96名、うつ病77名、双極性障害53名などとなっている。

④ 同居家族（重複あり：657名）

親401名、兄弟103名、配偶者64名、その他59名となっている。

④ 一人暮らし（351名）

共同住宅131名、その他220名となっている。

約4割が一人暮らしをしていると推定できる。

⑤ 収入

収入（月額）では、精神障害者手帳1級所持者（平均9.7万円）と2級所持者（9.8万円）の間に、特別の差異は認められなかった。65歳以上は、平均10.6万円となっている。

最頻値については、1級では8～10万円、2級では6～8万円と障害年金の受給と重なっており、65歳以上では6～8万円となっている。（各区分において30%以上を占めている）

収入の項目別では、年金が560名、平均6.7万円、工賃が299名、平均1.9万円、生活保護が237名、6.0万円、援助が211名、2.4万円となっている。項目のうち、1.2級間で金額に差異が有るのは工賃で、1級では0.8万円に対し2級では1.9万円となっている。これは、2級の就業のし易さとも考えられる。

⑥ 医療費（自己負担額）（最大・最小各5%を除く）

医療費の実費負担総額（月額）の平均値は、全体では8,666円となっている。

1級では、27%が2万円～4万円、8%が5万円～10万円と比較的高額な医療費負担者の割合が多く、平均値は15,329円となっている。

2級では、67%が6,000円以下であり、平均値は7,237円となっている。

65歳以上については、現在でも26%が1万円～3万円、12%が3万円～10万円を負担しており、2021年からの助成廃止は重大である。

生活保護受給者うち、62%は医療費の負担0円となっている。（74名／120名）

⑦ 医療費（過去5年間で一月に支払った最も高額な医療費）

入院が67,975円、通院が7,988円となっている。

⑧ 診療科

精神科以外については、1級、2級、65歳以上とも内科、歯科、整形外科が大半を占めている。

⑨ 医療にかかれなかった理由：94名

865名のうち、94名（10.9%）が記入している。

- ・経済的理由が48名（51.0%）
- ・精神的な理由・引きこもり・拒否：20名（21.3%）
- ・体調：6名（6.4%）
- ・その他：20名（21.3%）

経済的理由によって、半数が受診をあきらめている。

⑩ あなたと医療の関わりについて自由記載：317名

865名のうち、317名（36.6%）が記入している。

- ・通院他科受診3割負担に関する意見：33名（10.4%）

ガン、白血病、リハビリ等で医療費の負担が大きいとの声もある。

- ・65歳以上医療費の3割負担に関する意見：20名（6.3%）
- ・医療について；170名（53.6%）
 - うち「なくてはならないもの」148名（46.7%）
- ・経済について：42名（13.2%）
- ・薬について：36名（11.4%）
- ・入院医療費が高額というもの：16名（5.0%）
- ・65歳以上の医療費助成がなくなるのは、「死しかない」「長生きするなということ」「老人の障害者をみすてること」などと述べている。

医療は「なくてはならないもの」の声が、記入者の4割を超えている。

2. アンケート調査からわかること

- 病名は多いものから順に、統合失調症、発達障害、うつ病、双極性障害などとなっている。
- 家族と同居している人が過半数を占めているが、約4割が一人暮らしをしていると推定できる。
- 収入(月額)では、精神障害者手帳1級所持者と2級所持者の間に、特別の差異は認められなかった。
- 収入の項目別では、該当者が多いものから順に、年金、工賃、生活保護、援助となっている。
- 医療費の実費負担総額(月額)は、1級では、比較的高額な医療費負担者(ガン、白血病、リハビリなどによる)の割合が多いことから、27%が2万円～4万円、8%が5万円～10万円となっており、平均値は15,329円となっている。
2級では、67%が6,000円以下であり、平均値は7,237円となっている。また、「お金がないから医療を受けられない」との記述が多かった。
65歳以上については、26%が1万円～3万円、12%が3万円～10万円を負担している。
- 精神科以外の他科受診については、1級、2級、65歳以上とも内科、歯科、整形外科が大半を占めている。また、整形外科については、2級と65歳以上では、「生活保護あり」が「生活保護なし」より受診率がかなり高くなっている。
- 医療にかかれなかった理由について、回答者の半数が経済的理由と答えている。1級手帳所持者は原則医療費助成を受けていることから、経済的理由を上げているのは、2,3級の手帳所持者と手帳を持たない人となる。
- 自由記述では、「医療は一生必要なもの」など「医療はなくてはならないもの」が記入者の4割を超えている。「親と同居しているが、一人になったとき年金では医療費負担すると生活困難」「白血病を発症し昨年再発、骨髄移植を受けたので、医療費の負担はほぼ生活費の全て」などと述べている。
- 65歳以上の医療費助成がなくなるのは、「死しかない」「長生きするなということ」「老人の障害者をみすてること」など切実な声が上がっている。
- 入院医療費については、「入院したら障害年金では足りないので、親の年金から出している」「3割負担は大きく医療費のほかにも費用がかかるので大変」などと述べている。

3. アンケート調査から見える課題

(1) 高齢の障害者に対する医療費助成

高齢の障害者に対する医療費助成は、2021年になくなることにより、混乱や診療控えが起こる可能性がある。引き続き存続させるか、代替措置の検討が必要である。

(2) 2級手帳保持者への支援

経済的理由により受診をあきらめている人の大半は2級の手帳保持者であり、収入については1級の手帳保持者と大差がないため、受診ができるような何らかの支援が望まれる。